

第6学年 社会科学学習指導案

場所 6年1組教室

授業者 ○○ ○○

1 単元名 「世界に歩み出した日本」

2 単元について

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

本単元では、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解し、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことが分かることとともに、それらに関わる人物の願いや働きを考えようとするのが大切である。そのために、「日本の立場は、世界の中で、どのように変わっていったのだろう。また、国民生活には、どのような変化が起こったのだろう。」という単元を貫く課題で学習を進めていく。

江戸幕府の後期、幕府は日米和親条約と日米修好通商条約を結んだ。その条約は、関税自主権がない・領事裁判権を認める等、日本にとっては屈辱的なものであった。その後、明治新政府は次々と新しい政策（富国強兵・殖産興業・地租改正等）を行い、外国に日本の力を認めさせようと努力してきた。その努力もあり、日本は工業を発展させ、少しずつ諸外国からも認められるようになってきた。しかし、外国と結んだ不平等条約が日本の発展に大きな足かせとなっており、多くの政治家が条約改正に力を尽くしてきた。この時代に起きた日清・日露戦争の勝利、日本人による科学技術や文化の発展等により、世界も日本の力を認めるようになってきた。

日清・日露戦争、条約改正、科学の発展等により、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを知り、厳しい外交のなかにおける国民の安全確保に尽力した人々がいたことを捉えられるようにしたい。

3 児童の実態

6年の歴史学習では、各時代の歴史事象を調べるにつれ、楽しく学んでいる児童と時代の特色がつかめずにいる児童に分かれてきている。資料から事実を読み取ることは今までの社会科学学習で少しずつ身につけてきて、ノートに事実や考えを書こうと努力する児童が増えてきた。しかし、事実をもとに課題について考えたり、事実と事実をつないで考えて表現したりする力はまだ十分とは言えない。

そこで、既習事項と自分の選んだ資料をつないで考えるようにしたり、人物の働きや関係を地図や年表を用いて具体的に調べたりして、社会の変化を丁

寧につかませて、課題解決を目指せるようにしていきたい。

4 研究にかかわって

研究内容1 教材化の在り方と単元構成の工夫

① 社会認識を深める教材化の在り方

現代の日本は、世界をリードしている国の一つである。しかし、過去には欧米諸国の圧倒的な力に不平等条約を結ぶことを押しつけられ、そのために多くの日本人は、いろいろな面で苦しんできた。その状態を解消するために多くの人々がたゆまぬ努力を続けてきた。現代の日本の繁栄があるのは、間違いなくこれらの人々の働きによるものである。人々の思いを探り、当時の社会情勢を知ることにより、これからの日本を考える良い機会となると考える。

研究内容2 学習活動の工夫

① 強い課題意識をもたせるための事象提示の工夫

まず、条約改正の歩みが分かる年表を提示する。江戸時代に半ば強制的に結ばされた不平等条約を早く改正したいと当時の政府は何度も繰り返し交渉を行ってきた。しかし、失敗の連続。多くの失敗の後、1894年に陸奥が領事裁判権の撤廃に成功する。なぜ陸奥が成功することができたのか、それを探ってみたいと意欲をもたせ、「どうして陸奥宗光は条約改正を成功させることができたのだろうか」という課題を設定する。

② 社会認識を深めるための交流の工夫

(事実認識・意味認識の在り方)

自分がこの資料をもとに考えてみたいと、ネームプレートで立場を明確にする。全体交流では、必要に応じて資料の前に立ち、根拠を明確にして発表する。また、教師は児童の考えをつないだり、深めたりするために問い返しをしたり、板書を工夫したりする。

③ 単位時間の終末（生かす）の工夫

(共感する、見方・考え方を高める、一般化する、生き方を見つめる)

小村寿太郎は、陸奥宗光の後を受け継ぎ、一部しか回復されていなかった関税自主権を回復させた。多くの人々の努力により、日本は今、外国と対等な関係を築けていることを理解させる。

研究内容3 評価と指導・援助

① 一人一人の学習状況に応じた指導・援助の明確化

個人追究の手助けとなるように、今までに学習した内容については、側面に掲示していつでもその時点に立ち返ることができるようにする。

なかなか自分の考えを表現することが苦手な児童には、机間指導の中で声をかけ、「ここを見てどう思う。」と視点を与えたい。また、事実を断片的にとらえている児童には、課題を再確認し、課題と見つけた事実をつなげて書けるように助言をする。

② 身に付けさせたい力の定着を図る見届けの工夫

キーワードは分かりやすく黒板に明示し、キーワードを使ってまとめを書くように指導する。また、自己評価カードを用いて、読み取りや内容理解などを評価し、自分の学習を振り返ることができるようにする。

5 本時のねらい

陸奥宗光が不平等な条約の改正（領事裁判権）に成功したのは、日本を外国と対等な国にしたいという強い思いがあったこと、日本が近代化して欧米諸国から認められるようになってきたこと、欧米諸国の動きに着目しながら粘り強く交渉を行ったからであると考え、表現することができる。

6 本時の展開（3時/全7時間）

	学 習 活 動	指導・援助（＊資料）
課題をつかむ	1 前時の学習を振り返るとともに条約改正の歩みから課題をつかむ。 - 江戸時代に結んだ条約は、日本にとって不平等なものであり、皆を苦しめてきた。 - 日本は欧米諸国とは、対等ではなかった。 - 条約改正に向けて、何回か交渉が行われてきたが失敗が続いた。やっと陸奥宗光が成功させた。なぜだろう。 2 本時の課題を確認する。 どうして陸奥宗光は条約改正を成功させることができたのだろうか。	＊条約改正の歩み（年表） ＊陸奥宗光の肖像画 ＊陸奥宗光の年表
調べる	3 予想を交流し、課題解決の見通しをもつ。 - 粘り強く努力し続けたからではないか。 - 外国と対等につきあいたいという気持ちが強かったからではないか。 - 日本が諸外国から認められるようになってきたのではないか。 4 資料を使って調べ、考える。 5 課題について考えたことを、仲間と交流する。 資料①陸奥宗光の年表（エピソード） - 坂本龍馬と共に活動していた。 →日本を変えたいという気持ちが強かった人だと思う。 - あの坂本龍馬が、ほめたほどの人物で、交渉上手だ。 →交渉上手が生きたのだろう。 「カミソリ」大臣と呼ばれた。 →すぐく頭の良い人で、いろいろ工夫したのだろう。 - 何回も外国に渡っている。イギリスに留学している。 →外国の事情（特にイギリス）に詳しくただろう。 資料②日本の近代化 - 外国に習って、政治の仕組みが整えられた。 →日本もきちんと政治ができる国になった。 - 大日本帝国憲法が發布され、帝国議会ができ、選挙も行われるようになった。 →欧米のような制度ができた。 - 鉄道、郵便、建築…も新しくなった。 - 学制もできた。 →昔の日本ではない。	示し、振り返ることができるようにしておく。 ・江戸時代に結んだ不平等条約の内容について側面に掲 ・前時の「ノルマントン号事件」で条約改正の要求が高まったことも想起し、課題づくりができるようにする。 ・条約改正に向けた陸奥宗光の努力について、児童が理解できるように資料提示をする。 ・ネームプレートで自分の考 えている立場を明確にし、資料ごとに話し合いができるようにする。
深める	6 深める。 その頃、アジアではイギリスがどんどん力を伸ばしてきていた。イギリスにとって一番の脅威は南下政策をとるロシアである。ロシアを牽制するためには、日本の協力が必要だと考えた。 7 学習のまとめをする。 陸奥宗光は、不平等条約の改正に向けて、領事裁判権をなくすために粘り強く交渉の努力を続けた。また、日本の近代化も外国に認められた。その頃の外国との関係も条約改正に大きな役割を果たした。この結果、日本は欧米諸国から認められ、対等な関係でつきあうことができるようになった。 8 生かす。 小村寿太郎は、陸奥宗光の後を受け継ぎ、一部しか改正されていなかった不平等条約の関税自主権を回復させ、改正を達成させた。陸奥宗光が条約改正の道筋をつくり、江戸時代から続いていた不平等条約を改正することができた。	◆評価規準 陸奥宗光が条約の改正に成功したわけを陸奥の思い・交渉の努力・外国との関わりなどからとらえ、それらを関連させて考えている。（思考・判断・表現） <ノート・発言>
まとめる		・当時のアジアの情勢について地図を見ながら、視覚的に確認するようにする。 ＊当時のアジアの様子
生かす		・キーワード「粘り強く交渉」 「日本の近代化」「外国との関係」を入れてまとめられるように指導する。 ・仲間とまとめを交流する。

		・先送りになっていた関税 自 主権の回復を成功させた 小 村寿太郎を紹介する。
--	--	--

7 単元構成表

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用・技能	知識・理解
単 元 の 目 標	・日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きについて関心をもち, 進んで調べることができる。	・年表や絵, 文章などの資料を効果的に活用し, 日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きなどについて考えノートに記述している。	・日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きなどについて資料を活用して調べたり, 人物の業績や考え方についてまとめたりすることができる。	・日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解する。また, 我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上し, それによって人々の生活や社会が変化したことを理解する。
評 価 規 準	・日本の産業の発展や外国との関わりに関心をもち, 進んで調べようとしている。①	・陸奥宗光が条約改正に成功したわけを陸奥の思い・交渉の努力・外国との関わりなどからとらえ, それらに関連させて考えている。③ ・日本の国力の充実や国際的な地位の向上, それらにともなう社会の変化を人物の働きや思いと関連づけ, 適切に表現している。⑦	・不平等条約が日本にもたらしていた不利益を資料や本文から読み取っている。② ・二つの戦争に勝利したことが日本の世界における地位向上につながったことを資料や本文から読み取っている。④	・日本が朝鮮を植民地にし, 朝鮮の人々を傷つけたこと, 小村寿太郎が条約改正を果たし, 欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解している。⑤ ・産業の発展が様々な面で人々の生活に変化をもたらしたことを理解している。⑥

<単元前の児童の実態>

黒船の来航, 明治維新, 文明開化と時代が大きく変化した。また, 明治政府が廃藩置県や四民平等, 大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して, 日本は欧米の文化を取り入れつつ, 近代化を進めてきた。

考えさせたい内容	調べさせたい事実	押さえたい用語・語句
政府の殖産興業政策により, 進んだ設備をもった紡績工場や製鉄所などが建設され, 日本の工業化が進んだ。しかし, 日本が江戸時代に結んだ条約には, 不平等な面が多く残っており, 産業の発展には, 不平等条約の改正が必要であった。	政府の殖産興業政策によって大きな工場が作られ, 工業が盛んになった。欧米諸国に追いつこうと努めた日本は, 二つの戦争を経て, 世界の中での立場を変えていった。①	欧米諸国, 鹿鳴館, 殖産興業, 八幡製鉄所, 紡績工業
日本は日清戦争の結果, 賠償金や台湾などを得た。また, 日露戦争の結果樺太南部と満州鉄道を, 韓国の支配も認めさせた。中国やロシアに対する日本の勝利は, 欧米諸国に日本の力を認めさせることになった。ずっと続けられてきた外交努力の結果, 条約改正が達成された。	「フルマントン号事件」では, 多くの日本人が死亡したにもかかわらず, 船長はわずかな罪にしか問われなかった。日本は不平等条約に苦しみ続けてきたが, これをきっかけに, 日本では条約改正への要求が高まった。②	「フルマントン号事件」, 領事裁判権, 関税自主権
二つの戦争の勝利や産業・科学の発展などにより, 不平等条約が改正され, 日本は欧米諸国と対等な関係を築くことができた。	日本の発展には, 欧米諸国と結んだ不平等条約の改正が必要であった。陸奥宗光は, 粘り強い交渉を行い, 日本が近代化したこと・当時のアジア情勢も役割を果たし, 領事裁判権の撤廃に成功した。③	陸奥宗光, 領事裁判権, 条約改正
	日本と清(中国)は朝鮮をめぐる対立し, 日清戦争となった。日本は勝利して賠償金を得, 台湾などを植民地とした。日本とロシアは満州と朝鮮の支配をめぐる対立し, 日露戦争となった。勝利した日本は樺太南部と満州の鉄道を獲得し, 韓国の支配をロシアに認めさせた。④	日清戦争, 日露戦争, 賠償金, 植民地, 満州
	朝鮮を植民地とした日本は支配を強めたが, 朝鮮の人々は独立運動を続けた。小村寿太郎が不平等条約の改正に成功して関税自主権を回復させ, 欧米諸国と対等な関係を築いた。医学や物理学などで世界に認められる学者が現れ, 日本の交際的地位の向上に貢献した。⑤	韓国併合, 独立運動, 小村寿太郎, 関税自主権の回復, 新しい文学, 科学の発展, 国際的地位の向上
	産業が発展し, 都市化が進む一方で, 様々な社会問題が起きた。人々の民主主義への意識が高まり, 普選選挙や女性の地位向上, 差別撤廃を目指す運動が起こった。⑥	足尾銅山, 民主主義, 普選選挙, 女性の地位向上, 全国水平社
	日清・日露戦争, 条約改正や産業・科学の発展により, 我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上した。また, 産業の発展は人々の生活や社会に変化をもたらした。⑦	陸奥宗光, 小村寿太郎, 東郷平八郎, 野口英世, 平塚らいてう

<単元後の児童の意識>

二つの戦争の勝利や産業・科学の発展, そしてたゆまぬ外交努力などにより, 江戸時代から苦しめられてきた不平等条約が改正され, 日本は欧米諸国と対等な関係を築くことができた。

8 単元指導計画

過程	時	ねらい	学 習 活 動	指導・援助 ＊資料 ★評価規準
つかむ	1	「紡績工場」の写真や資料・年表を見て気づいたことを話し合う活動を通して、この時代にどんなことが起こり、日本が発展していったのかに興味関心をもち、今後の学習計画を立てることができる。	1 「紡績工場」の写真や資料・年表を見て、気付いたことを発表する。 ・とても大きな工場で、たくさんの女工と呼ばれた人々が朝から晩まで働いていた。 ・北九州に製鉄所もつくられた。 ・鹿鳴館では、着飾った人々が舞踏会をしていた。 ・日本は10年間で2回も戦争をしている。 2 課題をつくる この時代にどのようなことが起こり、日本が発展していったのだろうか。 3 「日本の西洋クラブへの仲間入りを描いたまんが」の絵から、世の中の様子を考える。 ・日本は何とかして、西洋諸国の仲間に入りたかった。 ・西洋諸国は、あまり歓迎しなかった。 4 読み取った資料からわかったこと、疑問に思うことを話し合い、学習課題を立てる。 《単元を貫く課題》 日本の立場は、世界の中で、どのように変わっていったのだろうか。また、国民生活には、どのような変化が起こったのだろうか。	＊紡績工場の様子 ＊官営八幡製鉄所 ＊鹿鳴館の舞踏会 ＊年表 ＊日本の西洋クラブへの仲間入りを描いたまんが ★日本の産業の発展や外国との関わりに関心を持ち、進んで調べようとしている。 (関心・意欲・態度)
調べる	2	「ノルマントン号事件」の風刺画や不平等条約の不利を説明した絵を見て話し合う活動を通して、不平等条約により日本が苦しんできたことを読み取ることができる。	1 「ノルマントン号事件を風刺したまんが」を見て気付いたことを話し合う。 ・外国人の船員だけがボートに乗っていて、日本人は海の中にいる。 ・日本人は全員死亡したのに、船長は初め無罪だった。そんなのはおかしい。 2 課題をつくる。 不平等条約によって日本は、どのような影響を受けたのだろうか。 3 予想を立てる。 4 資料から個人で追究する。 5 仲間と意見を交流する。 ・外国人が犯罪を犯しても、日本人が裁けない。 ・日本での外国人の勝手な行動が許されてしまうなんて困る。 ・輸入品に自由に関税をかけられない。 ・どんどん安い外国製品が入ってきて、国産品は売れなくなってしまう。 6 まとめる 不平等条約では、日本は領事裁判権を認め、<u>関税自主権</u>が無く、そのために国民は苦しい・悔しい思いをしてきた。日本は外国と対等なつきあいができなかった。	＊ノルマントン号事件を風刺したまんが ＊領事裁判権を認めていることの不利 ＊関税自主権がないことの不利 ・日本にとって何がどのように不平等だったのか問い返す。 ★不平等条約が日本にもたらしていた不利益を資料や本文から読み取っている。 (観察・資料活用の技能)

調べる	3 本時	陸奥宗光が不平等な条約の改正(領事裁判権)に成功したのは、日本を外国と対等な国にしたいという強い思いがあったこと、日本が近代化して欧米諸国から認められたこと、欧米諸国の動きに着目しながら粘り強く交渉を行ったからであると考え、表現することができる。	「条約改正の歩み」を見て、気付いたことを話し合う。 - 江戸時代に結んだ条約は不平等だった。 - 条約改正に向けて何回も交渉が行われたが、失敗続き。やっと陸奥宗光が成功させた。 - 課題をつくる。 どうして陸奥宗光は条約改正を成功させることができたのだろうか。 - 予想を立てる。 - 資料から個人で追究する。 - 仲間と意見を交流する。 - 何度も粘り強く交渉をし続けたから。 - 日本を外国と対等な国にしたいという思いが強かったから。 - 外国も日本が近代化したことを認めたから。 - 深める - その頃、アジアではイギリスが力を伸ばしてきていた。一方ロシアは南下政策をとる。イギリスにはロシアを牽制するために日本の協力が必要だった。 - まとめる。 陸奥宗光は、不平等条約の改正に向けて、領事裁判権をなくすために粘り強く交渉の努力を続けた。また、日本の近代化も外国に認められた。その頃の外国との関係も条約改正に大きな役割を果たした。この結果、日本は欧米諸国から認められ、対等な関係でつきあうことができるようになった。 - 生かす。 - 関税自主権を回復させた小村寿太郎を紹介する。	＊条約改正の歩み(年表) ＊陸奥宗光の肖像画 ＊陸奥宗光の年表 ＊条約改正が難航した理由 ★陸奥宗光が条約の改正に成功したわけを陸奥の思い・交渉の努力・外国との関わりなどからとらえ、それらを関連させて考えている。(思考・判断・表現) ＊当時のアジアの様子 ＊関税自主権を回復させた小村寿太郎
	4	二つの戦争に勝利したことが、日本の世界における地位の向上につながったことを読み取ることができる。	- 前時までの学習を振り返る。 - 陸奥宗光が不平等条約の一部を改正した。 - 関税自主権は認められずに日本は困っている。 - 日本は世界からまだあまり認められていない。 - 課題をつくる。 二つの戦争によって、日本と世界の国々との関係は、どのように変わっていったのだろうか。 - 予想を立てる。 - 資料から個人で追究する。 - 仲間と意見を交流する。 - 日本と中国は、先に朝鮮(魚)を釣り上げようとしている。 - ロシアは日本と中国の様子を見ながら、朝鮮(魚)を狙っている。 - 二つの戦争には勝利したが、大きな損害を受けた。 - まとめる。 日本と清は朝鮮への影響力をめぐる対立し、日清戦争が起きた。勝利した日本は賠償金を得て、台湾などを日本の植民地にした日本とロシアは満州と朝鮮の支配をめぐる対立し、日露戦争となった。勝利した日本は、樺太の南部と満州の鉄道を得て、韓国を勢力下に置くことをロシアに認めさせた。 - 生かす。 - 戦争により日本が力を付けていくのだが、戦争に反対した人々もいたことを知らせる。	＊朝鮮をめぐる、日本、ロシア、中国 ＊日清戦争の戦場 ＊日露戦争の戦場 ＊清から得た賠償金と戦費 ＊二つの戦争での日本の戦死者 ＊戦争への反対 ＊与謝野晶子 ・2つの戦争の共通点や相違点に気付かせる。 ★二つの戦争に勝利したことが、日本の世界における地位向上につながったことを資料や本文から読み取っている。(観察・資料活用の技能)

深める	5 日本が朝鮮を植民地にし、朝鮮の人々の誇りを傷つけたこと、条約改正を果たして欧米諸国と対等になったこと、医学などの分野での活躍が日本の国際的地位の向上につながったことを理解することができる。	1 前時までの学習を振り返る。 ・日本は二つの戦争に勝利して、植民地を得た。 ・欧米諸国は日本の力を少しずつ認めてきている。 2 課題をつくる。 世界の中で日本の立場は、どのように変わっていったのだろうか。 3 予想を立てる。 4 資料から個人で追究する。 5 仲間と意見を交流する。 ・日本は朝鮮を植民地にして、国土を広げていった。 ・朝鮮の人々は誇りを傷つけられたが、独立運動を続けた。 ・やっと不平等条約が改正された。 ・世界で活躍する日本人がたくさん出てきたことにより、日本が世界に認められるようになってきた。 6 まとめる。 日露戦争に勝利した日本は朝鮮半島を植民地としたが朝鮮の人々は<u>独立運動</u>を続けた。また、小村寿太郎が<u>関税自主権の回復</u>に成功し、欧米諸国との対等な関係を築いた。さらに、医学や物理学などで世界に認められる学者が出てきたことで、世界も日本の力を認めるようになり、日本の<u>国際的地位</u>が向上した。 7 生かす。	＊領土の広がり ＊なくなる朝鮮語の授業時間 ＊条約改正の流れ ＊野口英世 ＊夏目漱石 ＊樋口一葉 ★日本が朝鮮を植民地にし、朝鮮の人々を傷つけたこと、小村寿太郎が条約改正を果たし、欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解している。 (知識・理解)
深める	6 産業の発展によって起こった社会問題やさまざまな運動について調べ、人々の民主主義への意識が高まったことを理解することができる。	1 「工業の発展」のグラフをもとに、当時の人々の生活や社会で発生した問題を予想する。 産業の発展によって、人々の生活や社会はどのように変化したのだろうか。 2 予想を立てる。 3 資料から個人で追究する。 4 仲間と意見を交流する。 ・鉍毒問題…有毒な煙や廃水が深刻な被害をもたらした。 ・労働運動…労働者の生活を守る。 ・農民運動…小作料の引き下げを求める。 ・普通選挙を求める運動…25才以上のすべての男子 ・女性の地位向上を目指す運動…女性・母親の権利 ・差別をなくす運動…全国水平社 5 まとめる。 産業が発展する一方で、さまざまな社会問題が起き、人々の民主主義への意識が高まった。普通選挙権や女性の地位向上を求める運動、根強く残る差別の撤廃を目指す運動が起こった。 6 生かす。	＊重工業の発達 ＊ラジオ放送が始まる ＊交通の発達 ＊洋服の普及 ＊田中正造と足尾銅山 ＊普通選挙の実現を要求するデモ ★産業の発展がさまざまな面で人々の生活に変化をもたらしたことを理解している。(知識・理解)

まとめる	7	日清・日露戦争、条約改正や産業・科学の発展について振り返り、習得した「ことば」を使って、日本の国力の充実による国際的地位の向上や国内での民主主義の広がりについて文章で表現する。	1 前時までの学習を振り返る。 ・日清・日露戦争、条約改正、産業・科学の発展… 2 本時の課題を確認する。 学習問題について調べてきたことを人物カードに整理し、学習を通して考えたことをノートに書こう。 3 人物カードに業績を記入する。 ・陸奥宗光…条約を一部改正（領事裁判権） ・東郷平八郎…日露戦争でロシアを破る。 ・小村寿太郎…条約改正を達成（関税自主権の撤廃） ・・・ 4 学習してきた「ことば」と人物の業績との関連を話し合う。 5 国際的地位の向上や国内での民主主義の広がりについて文章で表現する。 不平等条約に苦しんでいた日本は、産業が発展して国力が充実し、国際的地位が向上したことによって条約改正にも成功し、外国と対等にわたりあうようになった。また、国内では産業の発展による問題が発生したことで、人々に民主主義の意識が高まった。	＊人物カード （陸奥宗光・東郷平八郎・小村寿太郎・与謝野晶子・野口英世・平塚らいてう） ・習得した「ことば」を使って表現できるように指導する ★評価規準 日本の国力の充実や国際的な地位の向上、それらに伴う社会の変化を、人物の働きや思いと関連づけ、適切に表現している。 （思考・判断・表現）
-------------	----------	---	---	--